

A. Y. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

大学に入学する前から留学をしたいと考えていたため、様々な留学制度がある同女を選びました。留学について検討していく中で、協定留学だと、やはり一番は費用面での負担が減り留学しやすくなること、また単位を交換してもらえるので卒業延期にならないこと、協定校に留学するため安心できること、国際課からサポートをしていただけることに魅力を感じたため、協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英語ができるようになりたいと思い英語英文学科に進学したため、英語は全く得意ではありませんでした。そのため英語の勉強には苦労しましたが、学校から与えられる課題や授業をきちんとこなすことで、かなり英語の力は伸びました。協定留学の出願には IELTS のスコアが必要だったので、IELTS の対策として、市販のテキストを使って勉強したり、国際課の留学準備セミナー、IELTS 対策講座を受講しました。国際課の留学準備セミナーや IELTS 対策講座では、IELTS の解き方や点数をとるコツを教えていただけたのでかなり役に立ちました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発まではやることもたくさんありあつという間でした。ドイツへの留学だったためドイツ語の勉強も市販のテキストでやりましたが、思ったよりやれず、本当に基本的なことしかできなかつたです。英語の勉強は、現地で聞き取りに苦労するだろうと思いきりスニングを特にやりました。ビザはドイツの学生ビザは現地に行ってから申請なので、出発前は必要書類を揃えるだけでした。英語でのメールのやり取り、寮の手続きで海外銀行送金など、初めてすることもたくさんあり、これもいい経験になりました。他には、クレジットカードやケータイの SIM カードの手続きも必要でした。

④ 現地到着後

空港へは現地学生の留学生担当のチューターさんが迎えにきてくれました。私の寮へは 30～40 分で、チューターさんとおしゃべりしていたらあつという間でした。チューターさんは学生なので同じくらいの歳で優しくしゃべりやすく、最初の緊張はすぐに和らぎました。ただ、チューターさんが全て連れて行ってくれ鍵も開けてくれ、その時にきちんと見たり覚えたりしておかなかつたので、鍵の使い方がわからず始めから大変でした。また、部屋の wi-fi が登録してから 24 時間後にしか使えないため、来てすぐに連絡が取れず苦労しました。

オリエンテーション期間は、同じ学期からスタートする約 15 か国 60 人の留学生と 2 週間毎日一緒に過ごしたので、その 2 週間でかなり仲良くなれ、学校や授業のことも説明してもらえたので安心できました。住民登録は入国してすぐにしないとイケなかったですが、重要な書類はドイツ語なので読むのや記入には苦労しました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

大学内の、通常授業と同じ建物で行われます。

◆ 授業内容、課題、試験

留学生のオリエンテーション期間に無料で受講できるドイツ語の講座がありました。留学生みんなで基礎からドイツ語を学ぶので、授業中の練習を通して周りの留学生と仲良くなれたのも良かったです。特に課題やテストもありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

すべての校舎が建て直したばかりで、とても近代的で綺麗です。キャンパス内の真ん中が広場になっていて、休憩時間にはたくさんの学生がそこで休憩しています。食堂も、安くて美味しい料理がたくさんで、毎回利用しました。

◆ 履修科目

オリエンテーション期間に学部から履修やテストについて教えていただきました。ドイツの大学なので授業はドイツ語で行われる授業がほとんどで、英語で開講される科目はかなり限られているため、必然的に履修科目は決まりました。

・ The Child Rights Approach in Development Cooperation

国連の子どもの権利条約について学びます。グループワークが多く積極的に授業に関われる雰囲気が良かったです。集中講義なのでスケジュールもハードで、Reading がとても多く、Speaking や Listening のスピードも速く、来たばかりの私にとってはかなり大変でした。今振り返っても受けた中で一番大変な授業でした。

・ Digitalization and Communities

現代の情報化社会について学ぶ授業です。情報系はあまり詳しくなかったので専門用語を理解したり、文献を要約するのが大変でした。先生が毎回日本のことに触れてくださって、クラスの皆に日本のことを紹介できたのも嬉しかったです。

・ Cross-Cultural Psychology

異文化間のコミュニケーションや人々の考え方、文化による行動の違いを学びました。先生がとても優しくわかりやすい授業をしてくださって、様々な国の学生がいたので、実際にク

ラス内でたくさんの文化に触れることができ、理解が深まりました。

• **International Team Working Skill**

異なる国の人と同時に何か物事を達成しようとするときにどうしたらうまくコミュニケーションが取れるか、気を付けるところなどを学びました。文化や育ってきた環境の違いによって私たちが普段当たり前だと思っていることにも違いが生まれることを身をもって感じることができ、とても面白かったです。

• **German language course**

ドイツ語を基礎の基礎から学びました。日本からあまり勉強できずに行ってしまいました。周りの留学生のほとんどが私と同じでドイツ語が全く分からない人で、先生もとても優しく、毎回楽しくドイツ語を勉強できました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業は学期はじめと学期末の集中講義と、毎週ある通常授業に分かれています。集中講義は普段は大学の教授でない方や他大学の教授の方がやってくださるもので、朝から夕方まであり、5 日間から 7 日間ありハードです。通常授業は 1 コマ 3 時間半です。（途中で休憩があります）ドイツ語は 1 コマ 1 時間半で週 2 回でした。テストは、ドイツ語以外はレポートやプレゼンでした。同じ期間にかたまっていないので助かりましたが、それでもプレゼンは長いものだとグループで約 75 分、レポートも長いもので 7 ページと、一つ一つはこなすのが大変なものが多かったです。ドイツ語のテストはリスニングとリーディングでしたが、授業で習ったものより想像以上に難しかったです。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

University Sports という、Düsseldorf 内の大学が合同でやるスポーツのクラブ活動があったので、私は週 1 回、ズンバというダンスに行っていました。プロの先生が来てくださって学校でやっていました。先生もドイツ語が話せない私に気を配ってくださって、毎回とても楽しかったです。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

現地での住まいは寮でした。Düsseldorf の他の大学に通う留学生も住んでいるので、近くの Heinrich-Heine University に留学している日本人とも出会えました。同じ HSD（デュッセルドルフ専門大学）の留学生でも住んでいるところは様々で、寮は主に 3 つに分かれています。私の寮は、電車、バス、トラムどの駅にも近く、スーパーや銀行も近くにあり、繁華街までバスで 10 分、中央駅までも 1 駅ととても立地が良かったです。近くには住宅街と小川があり、野生のリスや大きいカモがたくさんいて自然も豊かで静かで住みやすい環境でした。また、部屋も、他の寮に比べて新しくはないけれど、一人部屋で、広くて快適に

生活できる部屋で、居心地がとてもよかったです。コンロは2口ありますが、電子レンジはなかったです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1セメスター留学のため長期休暇はなかったですが、休みで時間の取れる時には周辺の国やドイツ国内を旅行しました。ヨーロッパ内でも国によってかなり文化が異なることや、ドイツの歴史、文化を学びました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは本当にたくさんで、選ぶのが難しいです。日々の生活で、楽しく活発な授業を受け一緒に勉強したこと、友達とおしゃべりしたり冗談を言い合ったこと、ご飯やお菓子を一緒に食べたことなど、振り返ると、何気ない日常が一番楽しく幸せだったのかなと感じます。また、台湾からの留学生の友達と2人で6日間旅行をしたときには、6日間朝起きてから夜寝るまでずっと英語を話したので、いろんなことを話せて楽しかったのはもちろん、英語をこれだけ長く話せる貴重な機会で自分の英語力アップも実感でき、思い出に残る良い経験になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初の集中講義、The Child Rights Approach in Development Cooperation はかなり苦労しました。国連の条文という難しい内容にもかかわらず、来たばかりで英語ができなかったので、読むのもかなり遅く、聞き取るのも半分くらいしか言っていることがわからなくて、ちょうど熱も出していたのでとても大変でした。でも、先生とクラスメイトが優しくしてくれたし、とても自分の力になった良い授業でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

電車の中などどこでも瓶ビールを飲み、女性を含めかなり喫煙者が多いことには驚きました。また、犬をスーパーや電車に連れていけること、育児をしている父親がとても多いことは、とても優しい文化で日本もそうなればいいなと思いました。また、現地学生でも他国出身やハーフ、ドイツ以外の国のバックグラウンドを持つ学生がたくさんで、日本に比べかなり文化がミックスされている国で、ドイツにしながら様々な文化に触れられることに驚きました。また、ほとんどの人が英語を話せることも日本では考えられないので、私が生活する中で助かったし、うらやましく思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

私が所属した Social Sciences and Cultural Studies の学部は、将来福祉や子どもに携わりたい人が多く、優しくフレンドリーな学生がとても多かったです。どの先生もスタッフの方も優しく接してくださいました。たくさんの国からの留学生と出会えること、ドイツ語ができない留学生も多く、また現地の人は英語を話せるので、ドイツなのに英語だけでも学校生活を送れることもよかったです。英語圏に比べて、スラングなどもなくきちんとした文法、わかりやすい発音で話してもらえるので、私にとっては英語圏より英語が学びやすい環境でした。大学の設備も綺麗で便利で、立地もいいので日本と変わらない快適さでした。悪かった点は特になかったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンはレポートやプレゼンを作るのにも役立つし、ドイツのパソコンはキーボードの配置が若干違い、日本語も打てないので自分のものを使用しました。また、寮にはテレビがないので、テレビ代わりに YouTube を見るのにも使えました。また、洗濯ネットや箸、風邪薬は特に持って行って置いてよかったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語のリスニング、スピーキング力はかなりつきました。リスニングは、ドイツに行ったばかりのころは、留学生の友達の中でも聞き取りづらい人がいたり、講義も半分くらいしか言っていることがわからなかったのですが、帰るころには、同じ友達の話をも普通に聞けたり、授業や日常生活もほとんど困らないようになりました。スピーキングも、はじめは自分の言いたいことを言うのに苦労していましたが、たくさん喋って、思ったことは諦めずに口にすることを心がけたら（元からおしゃべりな性格だったのもプラスになりました）、話したいことがすぐに出てくるようになれました。また、ビザをはじめ手続き系はかなり大変でストレスの溜まるものでしたが、自分で情報収集しやり遂げること、大変なことも自分を成長させてくれるチャンスと考え立ち向かうことや、一人でも計画を立て様々なところへ出向くことで、行動力がつきました。また、英語力をつけて、英語を手段にして世界の文化を知ること、世界中の人とコミュニケーションを取りたいというのが私のかねてからの夢だったので、留学中に少しは達成できたのが嬉しかったです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は語学力の向上はもちろんですが、日本では経験できないこと、自分を成長させてくれることをたくさん経験できます。日本とは違い苦労することもあります。どんなことも留

学先でしか経験できないことだとプラスに捉え立ち向かえば、達成感を味わえます。また、ドイツは、英語が母語ではないけれど皆英語が話せ、きれいな文法、発音で、ネイティブよりはゆっくり話してもらえるので、英語圏に比べて、易しく英語を上達できる良い環境だと思います。私は留学をして、英語の力をアップさせることができ、それを使って世界の様々な文化に触れることができ、日本の良さにも気づくことができ、新鮮で刺激のある毎日を過ごせました。ドイツ語ができなくて躊躇しているのならその心配はいらないので、もし迷っているならぜひ行ってみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学で特に伸びたリスニングとスピーキング力は、日本にいてもどうしても触れる機会が減ってしまうので、外国人を見かけたら話しかけるくらいのつもりで、英語に触れる機会を自分からつかんで、せつかくついたリスニングとスピーキング力が落ちないようにしたいです。将来は旅行や観光に携わりたいと思っています。留学前は、外国文化への憧れの気持ちが強かったですが、留学中に、周りの友達から、日本は私が思っていたよりはるかに世界の人にとってかっこよくて発展している国、魅力的な国だということに気づかせてもらったので、留学後は、日本の素晴らしさを伝えたいという気持ちの方が大きくなりました。また、同じヨーロッパでも国によって全然文化が違うということも自分自身で肌で感じる事ができたので、元から興味のある世界の文化についてもより学んでいけたらと思います。

V. 写真



HSD の International office が留学生向けに様々なイベントを開催してくださいました。写真は、同じ学期スタートの留学生とボン近くの drachenburg 城へハイキングをしに行ったときのものです。イベントのおかげで学科を越えて留学生の友達と交流できるのがよかったです。



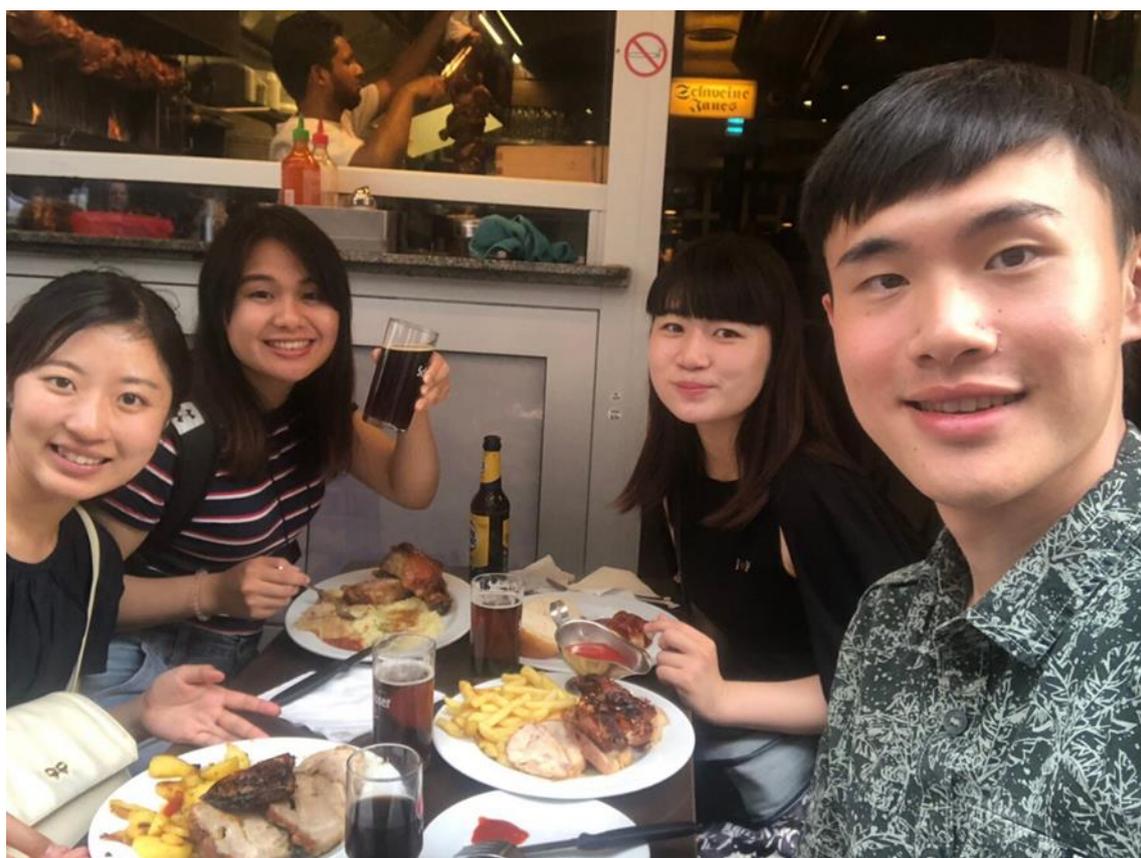
現地学生の友達と、天気の良い日に外のテラス席でお昼を食べました。後ろの建物が、一番よく通って思い出がたくさん詰まった、Social Sciences and Cultural Studies の学部の建物、Building3 です。学部ごとの建物はそれぞれメインカラーが決まっていて、Building3 は黄緑色でした。



Cross-Cultural Psychology の授業で一緒にプレゼンをしたメンバーです。みんなで何度も話し合っ準備を進め、約 75 分のプレゼンをやり遂げることができました。日本、カンボジア、アルジェリア、イスラム教の文化を知ることができ、この文化同士を比較することはなかなかできないことなので、貴重な経験になりました。また、クラスの皆にもプレゼンが好評だったので、終わった後は達成感を味わえました。



留学中、たくさん助けてくれて、ドイツのことをたくさん教えてくれた大切な友達と、ドイツ最終日に思い出の地巡りをしたときに、大好きなドイツの街並みがある旧市街 Altstadt で撮った写真です。この2人がいなくては充実した留学生活を送れなかったのも、優しい友達に恵まれて本当によかったです。



一番仲良くしていた留学生のメンバーで、ドイツ語の授業を一緒に受け、ヨーロッパ各地の旅行にも一緒にたくさん行きました。この友達と、いつも冗談を言い合って、にぎやかにたくさん喋ったおかげで英語が話せるようになりました。写真は、ドイツ最後の夜にドイツ料理とデュッセルドルフの地ビールを飲んで思い出話をしたときのものです。

M. T. 英語英文学科・4年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小学生の頃からアメリカやオーストラリアに各10日で短期留学に行く機会があり、海外に興味を持っていました。そして、友人が高校3年間留学に行き、流暢に英語を話している姿がかっこよく、長年憧れで1回生の頃から大学生の間に留学へ行きたいと思っていました。ですので、1回生から何度もIELTSを受験し、出願に向けて勉強していました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英語圏の国への留学を目指し勉強し始めましたが、自分ではなかなか時間を確保することが難しく、英語のスキルや点数を上げるために様々な塾に通うことで勉強の時間を確保していました。また、塾では時間が限られているので課題を出していただき、学校の空きコマや家でリスニングやリーディングやライティングを行い、塾では主にスピーキングとライティングの添削をしていただきました。教材は、IELTSの過去問題集のテキストを使用していました。しかし、春学期の留学募集は10月で、出願するためには9月までにスコアを得なければならいけませんでした。そのため最後に9月にIELTSとTOEFLを受験しました。しかし、基準のスコアに一步届きませんでした。その際に出会ったのがドイツ留学でした。始めは英語圏でないことに抵抗がありましたが、「留学」にこだわり、ドイツを選択しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

決定後、ドイツ語に全く触れたことがなかったので本を購入し、一から始めました。しかし、独学は難しくあまり思うようには進みませんでした。また、英語も不安でいっぱいだったので1日忙しくても5つは新しい単語に触れていました。塾もやめる事なく、スピーキングを中心に勉強していました。

ビザは現地で取らないといけないので日本ですることは資料を揃えるくらいでした。

④ 現地到着後

現地に到着し、以前に予約していたチューターさんが迎えに来てくれました。チューターさんが学校から交通機関が全て無料になるチケットを持って来てくださりました。ですので、交通費は必要ありません。空港から私の寮までは約1時間で、チューターさんと電車の中でお話ししていたので、すぐに着いた気がしました。その後、寮に連れて行ってくださり、私の代わりに鍵や寮説明を聞いてくれたみたいなので、色々教えてくれました。そして、わからないことがあるといつでも質問に答えてくれました。

到着して次の週から 2 週間学校のオリエンテーションが始まりました。毎日説明会や他国から来た留学生とのコミュニケーションの時間、ドイツ語の授業で盛りだくさんの日々でした。毎日が新鮮で新しい出会いがあり、楽しい充実した 2 週間でした。

オリエンテーションの中にビザや各手続きのこともたくさんありました。まずは、住民登録（入国してから 2 週間以内）をし、学校の近くで保険のチェックがあり、学生証を入手するためのお金を全員で振り込みに行き、学校で学生証を受け取り、ビザを取る予約をし、3 月末にはビザを取得できたので、手続きは全て終わることができました。時には、わからないこともあったので、チューターさんを頼りながら進めることができました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

オリエンテーション期間（約 2 週間）にドイツ語が無料で受講できるサポートがありました。

◆ 授業内容、課題、試験

レベルは 3 段階に分けられ、初級は数字や挨拶から始まりました。留学生の多くが初級なのでドイツ語が話せなくても心配無用でした。

試験は正規でしかなかったもので、オリエンテーション中の授業での試験はなかったです。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

施設や環境は全て整っており、日本とあまり変わりなく過ごすことができました。学部ごとにビルが違っていたり、学校自体が広くて、真ん中には広場のように芝生が広がっていて休み時間はほとんどの学生が外で過ごしていました。学校内でもタバコを吸う学生が多く、そこは少し日本との差を感じました。また、食堂や図書館もあり、食堂は日本より安くたくさん食べることができ、野菜バーが魅力的で、毎日楽しみにしていました。図書館はデュッセルドルフ専門大学の売りの一つであり、たくさんの本で溢れており、常にたくさんの学生で勉強する際は席を確保するのに一苦労でした。

◆ 履修科目

まず、オリエンテーション期間に各学部で説明会がありました。その際に英語で開講される授業を教えていただき、その中から選択しました。やはり、英語圏ではないので数は少なかったです。そして、同志社女子の方に興味のある科目の情報を送信し、単位を交換してもらえるか判断していただきました。興味があった科目は初めの授業に参加してサインすると登録になりました。

• Cross-cultural Psychology

英語での授業だったので、様々な国から集まった留学生がいました。そのクラスでは生粋の

ドイツ人は1/4というくらい色々な国の文化が混ざっていました。そして、パワーポイントで1つの写真を提示され、どのように見えるかと質問され、同じ写真にもかかわらず、たくさんのお意見が出て、様々な感情や文化を知る事ができました。

• **German Language Class**

初級編で、オリエンテーション期間の延長で受けてみたいと思ったので履修しました。週に2回授業があり、毎回知識が増えていくので楽しかったです。街中で話されている言語がほんの少しずつですが理解できていった気がしました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

• **Cross-cultural Psychology**

はじめにシラバスが配られ、毎週異なった話題で授業があり、その中で一番興味があるお題について一人以上でプレゼンをし、最終期末はレポートを提出しました。

• **German Language Class**

特に小さなテストはなく、最後に大きな期末筆記試験がありました。テストは、Listening と Reading と Writing でした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブはたくさんあり、無料のものや有料のものがありました。私は、体を動かしたいと思ったので、ヨガを授業終わりに週1回受けていました。

また、デュッセルドルフは日本人が多い街で日本人であるからこそできることがあるのではないかと思います、5月にある「日本デー」という大きな行事でボランティア活動をしたいと思い、「日本クラブ」という団体に所属し、当日折り紙や習字を大勢のお客様に提供しました。みなさん、日本に大変興味があり、コスプレをして町中を歩いていました。また、ボランティア活動中は、たくさんお話ができ、たくさん日本について質問を受け、海外の方はこのような点に興味を持つのだなと感じ、新しい発見ができて貴重な経験になりました。

また、現地でも音楽に触れたいと思い、市民オーケストラに参加しました。平均年齢は60歳くらいで高齢の方が多かったのですが、とても可愛がってくださり、英語で話してくださるので、何不自由なく過ごすことができました。そして、そのオーケストラでプロの日本人の方と出会い、レッスンを受ける機会も得ることができ、日本ではできない経験をしました。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

私は、寮に住んでいました。留学に行く前に留学先の学校から寮申し込みの資料をいただき、申し込みました。そして、決定後初月の寮費の振り込みや手続きについて送信されてきたため寮を選択することはできませんでした。私の寮は二人部屋で、トルコ人の女性と共同で生活をしていました。しかし、二人部屋と言っても、各々部屋があり、シャワーとトイレとキ

ッチンだけが共同でした。しっかりプライベートもあり、毎日コミュニケーションを図り、楽しく過ごしていました。

食事においては、基本的に外食は行わず、近くのスーパーで材料を購入し、家で作っていました。この時もルームメイトと時間がかぶることがありますが、コンロは4つあり、キッチンも広いので食品もシェアして、トルコ料理を食べることもできました。

通学は、トラムで1時間ほどかかりますが、寮には同じ学校の留学生が住んでいるので時間がかぶると一緒に通学することもありました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1セメスターでしたので長期休暇はありませんでしたが、学校が週に2回でしたので、合間を見つけては海外やドイツを周遊することができました。学校で仲良くなった友人やルームメイトなどと一緒に周り、楽しい時間となりました。

また、友人がヨーロッパ内に留学していたので行ったり来たりし合って、住んでいるからこそ知っている所に案内したりしてもらったりして、旅行も満喫できました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は4回生で留学したため、就職活動に支障が出ました。やはり、留学先でエントリーはできても会社によっては、その後のステップに進めないこともあるので慎重に少しずつ進めましたが、情報を得るのが難しかったためあまり思い通りには進みませんでした（しかし、帰国してから始めましたが意外とたくさんの会社が募集しているので心配ありませんでした）。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ドイツはヨーロッパの真ん中にあるので、どこの国でも電車・バス・飛行機で安くすぐに国外へ飛んでいくことができたことです。日本からだとはヨーロッパは遠くてお金がかかりますが、1,000円代から旅行できてしまい、国によっては日帰りできました。これはドイツに留学した特権だと思います。また、学生証で一部のオランダに行けてしまったり、デュッセルドルフの所属しているノルトライン＝ヴェストファーレン州内は乗り物ほとんどが無料で乗り放題なので、プチ旅行やお買い物に行き放題でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

はじめの1か月は、手続きが多く、1期生のため聞く方もいなく、何度も心が折れそうになりました。そして、新しい環境で一人暮らし自体も初めてで、慣れないことばかりでした。しかし、2か月目からは少しずつ慣れ始め、心配なく暮らすことができました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

やはり一番は、タバコの喫煙者の多さです。歩きタバコも多く、常にタバコの匂いを吸っている感じがしました。しかし、建物や交通機関の中では流石に禁止になっているので、建物の前ではたくさんの方が吸っていたり、交通機関に乗るギリギリまで吸って、降りるときは口にくわえて降りたりと依存症の方が多かったです。

冬の室内は暖房がしっかり入り、寒さは全く感じませんでしたが、夏は昨年から異常気象で 40 度まで上がることもありましたが、お店以外の交通機関内や寮内は冷房の設備がなく、少し困ることがありました。しかし、日本のように湿気がないので息苦しくなることはありませんでした。夏の間は、次の日には 20 度まで下がったり気温の変化が絶えないので、服装や体調管理には気をつけたほうが良いと思います。

日常生活においては、人参やジャガイモや玉ねぎの野菜は 1 kg 単位で販売していたので消費が大変でした。

休日（日・祝）はお店が全て休みなので注意です！

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生が多いため、交流する機会が多かったです。また、現地の大学の学生さんはほとんどの方が英語を話せるので困ることはありません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

課題はパソコンを使うことが多いので、パソコンはあったほうが良いです。友人が持っていてなくて学校でして大変だったと聞いたので、パソコンは必ずいると言っていていくくらいです。ドイツのパソコンはキーボードの配置が違うので打ちにくいと思います。

ドイツ語の本（文法など）は授業を受けるならあったほうが良いと思います。先生によっては、ドイツ語しか話せない方もおられるみたいなので。

薬は、ドイツ人は大きいので日本人の体に合わないと聞きました。ある程度の薬はあると思います。

食料には全く困りませんが、調味料は日本のものを好む方はあったほうが良いかと思います。

あとは、現地調達できるので大丈夫だと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

あまりはっきりはわかりませんが、耳が英語だけで過ごしていくうちに慣れていきました。初めは流暢に話せる友人の英語が聞き取れませんでした。1 か月経った頃に以前に比べて

聞き取れているとふと感じました。授業も初めは半分ほどしか理解できませんでしたが、少しずつ慣れ、周りの学生さんの意見もわかってくるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

海外に住んで日常生活を送ることは勇気のいることですが、足を踏み入れてみると日本では絶対にできない経験が溢れていて、一生の宝物になります。今後就職をすると、尚更時間がなくこのような経験はできないと思うので、「1mmでも留学をしたい」と思っている方は絶対に留学するべきだと私は思います。母国で英語に触れることと母国以外で英語に触れることは環境が違い、英語がなくては生きていけない状況になるので、余計に英語の大切さや英語を身につけなければならない理由がはっきりと見えてくるのではないかと思います。

IV. 将来の目標

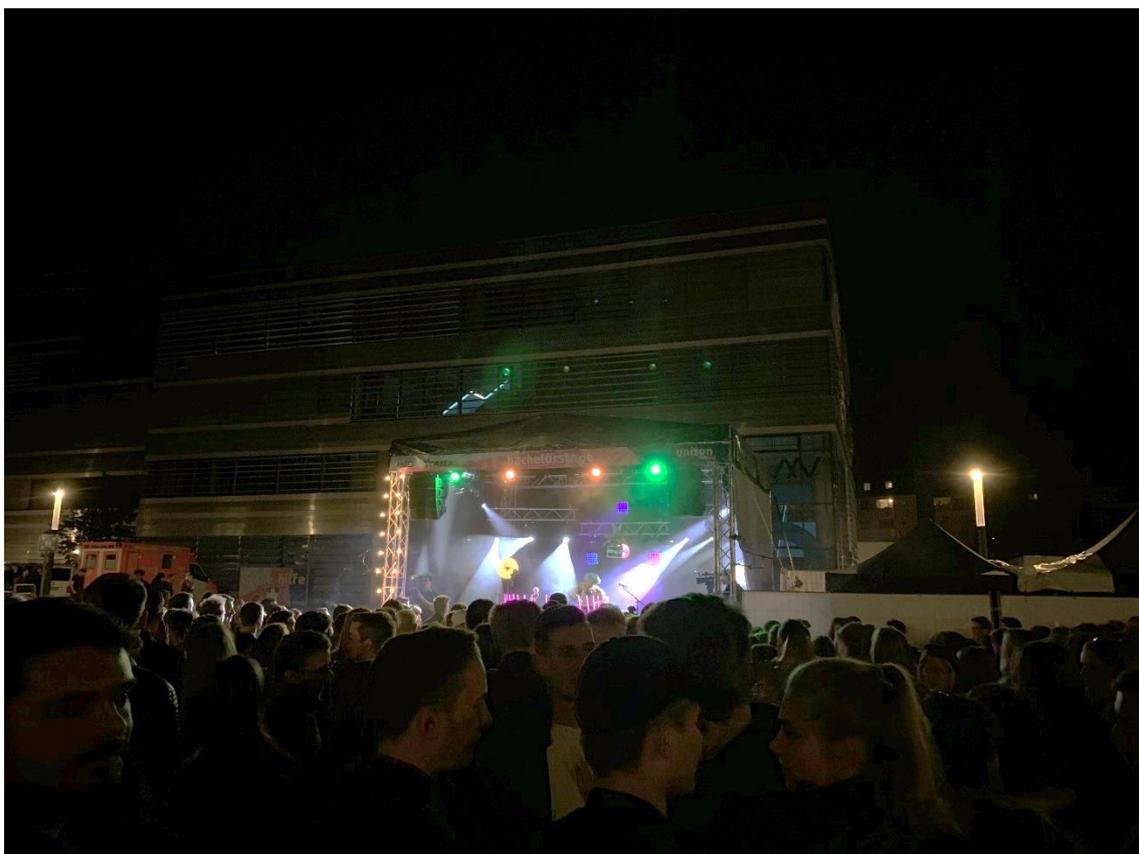
① 今後の進路、将来の目標・夢

私は、現在就職活動中ですが、留学を経験し、さらに英語をもっと上達させたい、話せるようになりたい、いつか英語を活かした職業につきたいと思いました。現在は、就活を始めるのが周りより遅れた分、企業や業界の幅を広げて就活をしていますが、将来機会があればもう一度留学に行けたらいいなと思っています。そして、それまでに自分の英語のスキルを磨いておきたいと思っています。

V. 写真



初めて仲良くなった友人たちとケルンに行きました。デュッセルドルフからは電車で1時間くらいで着きました。世界遺産でもあるケルン大聖堂にも訪れ、世界最大と言われている大聖堂は圧巻でした。（3月）



学校での文化祭です。学生が主となって計画して開催していました。まるでライブ会場のよう
に音楽がガンガン鳴り響き、学生は片手にビールとタバコを持ち踊っていました。日本では見られない光景だと思いました。（5月）



日本クラブに所属し、日本デーの日にお手伝いをしたときの写真です。皆、日本ではお馴染みの法被を身につけ、お客様はコスプレをし、思い出の1日となりました。お客様の好きな文字を書いて差し上げるのですが、中には名前を当て字にしたりする方もいたので頭を使いました。（5月）



ルームメイトに誘っていただき、韓国人とトルコ人と私で家でパーティーをしてから、ライン河沿いに建てられた大きな仮設遊園地に行きました。この頃は帰国を控えていたので寂しさと楽しさでいっぱいでした。しかし、とてもいい思い出となりました。（7月）



このライン河とラインタワーは、ドイツに留学してオリエンテーション期間に街探検があり、その時に連れてきてもらってから、帰国前日まで過ごした思い出の詰まった場所です。休日や時間のある平日は皆階段でビールを持って集まって、留学生の集まる場所でした。(7月)